

出張報告書

日本学術振興会研究拠点形成事業
ラボ交換型生命医科学研究コンソーシアムの立体展開
Core-to-Core Program “3D Lab Exchange”

以下のとおり出張の報告を致します。

<所属・出張者>早稲田大学 先進理工学研究科 生命医科学専攻 修士課程1年 白杉豊

<出張期間>2015年10月5日～10月8日(2泊4日)

<出張先>国名：アメリカ合衆国 都市名：ロサンゼルス

<訪問先>University of California, Los Angeles (UCLA)

<出張目的>研究発表及び議論

<出張概要>

本出張では、UCLAにて自身の研究内容の発表及び他研究室の教授、学生の研究に対する議論を行った。以下に具体的なスケジュールを記す。

2015年10月5日：成田からアメリカ・ロサンゼルスへ移動。ハリウッド付近に宿泊。

2015年10月6日：UCLAにて研究内容の発表、議論。生命科学の分野で積極的な議論を交わした。発表時間は10分、質疑応答2分で英語での発表だった。早稲田大学側からは学生5名と教授4名がそれぞれの研究テーマについて発表した。研究内容はそれぞれで異なるが、概日リズムや脳神経に関する研究が主であった。私の研究内容とは分野が多少異なるため、非常に新鮮な気持ちで聞くことが出来た。

2015年10月7日～8日：ロサンゼルスから成田へ移動

<写真>



左：シンポジウムの様子、右：発表時(白杉)

<出張総括>

今回のシンポジウムは、脳神経や概日リズムといった普段私が取り組んでいる分野と異なる研究の話ができ、私にとって非常に刺激的であった。私の研究内容は酵母を用いた減数分裂に関する研究であり、分野やモデル生物の観点から他の参加者とはかなり毛色が異なっているように感じた。実際に聴衆の中には分野が違いすぎるせいでかなり難しく感じたという声も多かった。他の分野の研究者に自身の研究内容を理解してもらうことの難し

さを痛感した。また、質疑応答に関しては回答が頭にあっても上手く英語として出てこないことがあった。英語力の足りなさに加え、質疑応答に対する準備がまだまだ甘いことを認識させられた。聴衆側に立った際に、は逆にイントロダクションの段階で混乱し追いつけなくなることもあった。英語力に加え、他の分野への関心と理解の甘さを痛感した。今回のシンポジウムは海外の研究グループを交えて分野を超えた有意義な議論がなされ、私にとって刺激的であったと同時に自身の弱点を考える貴重な機会であった。このシンポジウムで浮かび上がった自身への課題にしっかりと向き合い、今後の研究活動に活かしていきたい。